

■ 授業者より

○前時の学習

- ①ペアでフレーズづくりを行った。既習内容を生かしなが、リズムも加えて3音のフレーズをつくった。
- ②リコーダーでマイフレーズづくりを行った。ロイロノート・スクールのテキストカードに録音した。フレーズに名前を付ける児童もいた（ギザギザ等）。
- ③フレーズが旋律になることを確認するとともに、他者とつなげるにより音楽になることも確認した。
- ④教師から「山」をテーマとした旋律を提示した。児童に違和感がないかを問い掛けた。
- ⑤児童が「山」をどのように考えているのかを把握するため、「山」のイラストを描いた。
- ⑥学習の見通しをもち、振り返りを行った。

○次時の学習

- ①本時の続きを行う。
- ②作品の交流をしたり、既習曲を用いながらイメージと音の動きとの関連について考えたりする。
- ③イメージと音の動きとの関連を意識するために、題材全体の振り返りを行う。

○個別最適な学びと協働的な学びについて

個別と協働とのバランスが難しいと感じた。本時では、全体で共有したり、共感したりすることを重視し、協働的な学びの場の設定をしたが、児童が本当に必要としていたかどうかを考える必要があると感じた。

■ 指導助言

北海道教育大学旭川校 准教授

芳賀 均 様

○児童の事前アンケート結果は、「音楽を楽しむ理由は、歌唱、演奏、意見の交換など多岐に渡っている。また、音楽づくりでは、創造性を刺激し、他人との交流に喜びを感じる。」と要約できる。これらは、本時の児童の姿に表れていたことから、児童は喜びを感じながら活動していたと言える。

○言葉だけではなく、矢印等、自分なりの方法で自己表現している児童の姿が見られてよかった。可能な限り多様な形で表現できる学習環境をつくるのが大切である。

○思いや意図の主語は児童である。音楽づくりは、思いや意図が表れやすい大切な音楽活動である。

○音楽における協働的な学びの意義は、新たな価値をつくり出すことである。多様な表現方法で、児童の考えを引き出して共有できるよう協働的な学びの場を設定する必要がある。

○「思いは気分、意図は気持ち」という言葉に置き換えると分かりやすい。思考・判断・表現を経て得た言語が、イメージとサウンドをつなぐことにより、互いの思いや意図を共有できる。音楽を通して、思いや意図を共有すること自体が音楽の意義である。

■ 研究協議（主なものを抜粋）

○評価方法をどのように考えているか。

→本時は「思考・判断・表現」、次時は「知識・技能」のように、観点を切り分けて考えるのではなく、本時と次時の2時間で1つと捉えて評価をする。

→評価の観点を切り分けて考える必要はないが、分別をする必要がある。「考えた結果、言語化されたものが知識」「考えた結果、できるようになったことが技能」である。つまり、「技能：言語化できていない」「知識：言語化できている」と分別することができる。それらが、相互に関わり合って高まっていく。

→その時々々の児童の考えをロイロノート・スクールで記録するのはよい方法である。思考の過程が分かる重要なデータになり得る。また、児童に変容があったかどうかを判断できる点においても適切な評価材料になる。

○目指す児童の姿をどのように考えているか。児童の姿を見取る視点（よさや面白さ、思いや意図等）が多かったように感じたが…

→「どのフレーズを使って、どんなつなぎ方をするか」に対して、自分なりの考えをもつ児童の姿を目指した。どのような思いや意図をもっているのかを、振り返りカードに書かれてある表現から評価する。

○なぜ「友達とのフレーズをつないで」を入れたのか。まずは、自分のフレーズをつないでいく活動をし、困り感があつたときに協働的な学びの場を設定するという方法もあつたのではないだろうか。

→協働的な学びの視点から、友達の視点を取り入れながら進めるようにした。また、支援が必要な児童への配慮も兼ねて、初めから協働的な学びの場面を取り入れた。児童が、「自分だけのフレーズでつくりあげたい」という思いをもっているときには、それもよいと考える。→友達とフレーズをつないだ場合、不本意なものができることがあるが、「こう変えたい」「もっとよいものをつくりたい」等の思いへとつながる重要な刺激になる。

→無から有をつくることはできない。サンプルから考えを広めていくことが必要である。自分の気に入らないフレーズであっても、それを変えていくことに学習の意義がある。

○前時は、どのようにフレーズづくりをしたのか。

→同じ「山」でも、人によって捉え方は違うというずれを生むために、テーマを自由とせず、「山」に絞った。

→視覚的に感じることはできたが、実際に演奏して聴いてみるという活動も必要だった。

○山のイメージをもたせる際、山に関係する動物や、風や木の音等の資料提示があると、児童から多様な考えが出てくるのではないか。

→今回は、音の動きに着目させるために、山の形に焦点を絞った。